

ご利用案内

通常投映日時＝土・日・祝日

通常投映時間・内容(4月～6月)

11:00(幼児～小学生向け)	13:30(小～中学生向け)	15:00(高校生～大人向け)
THE COSMOS FULL OF LIFE おおぐま座こぐま座神話 こぐま座のティオ 星空だいぼうけん ほしのおはなし(星空解説)	おとめ座物語 妖怪ウォッチ プラネタリウムは星と妖怪がいっぱい! 星空解説	4D2U 地球と月の誕生 宇宙の旅人 ～Voyagers of space～ 星空解説

※ご希望による投映も行います。事前予約が必要となりますので、詳細はお問い合わせください。

観覧料

高校生以上(個人)	510円
高校生以上 (団体20名以上)	410円
中学生以下	無料

☆博物館パスポート1枚につき、
高校生以上1名無料

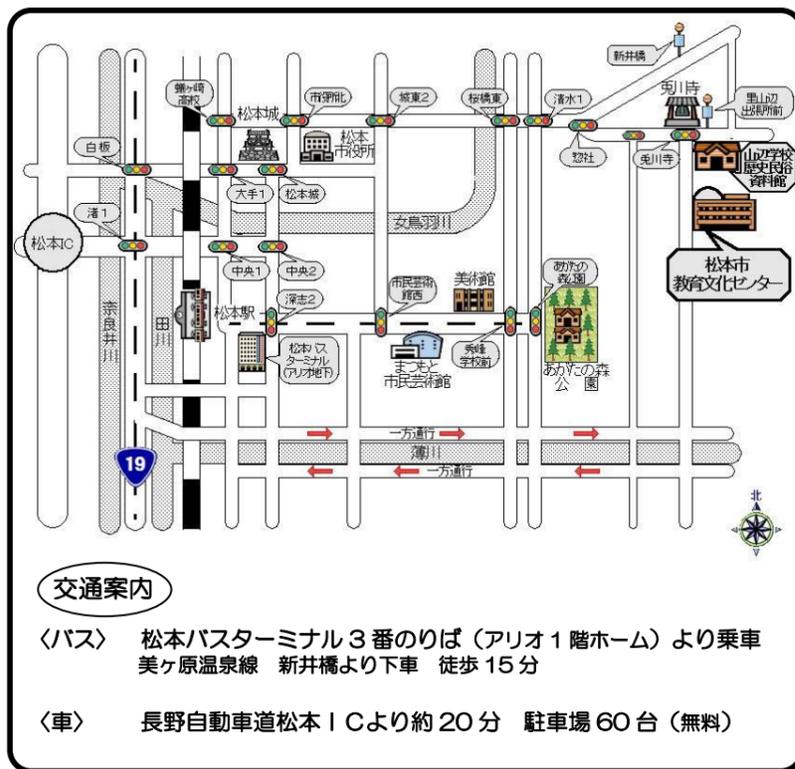
☆転入世帯優待券1枚につき、
1世帯家族無料

☆障害者手帳持参により、
本人とその介助者1名無料

☆市内在住70歳以上の方は無料

☆その他、各種イベント開催時には無料

アクセス



松本市教育文化センター

〒390-0221 松本市里山辺 2930-1

TEL:0263-32-7600 FAX:0263-32-7604

E-mail: kyoubun@city.matsumoto.lg.jp

星空クイズ!(木星の衛星編)

おおぐま座のモデルの女性名が
付けられた木星の衛星は?

- ①イオ ②エウロパ
③ガニメデ ④カリスト

答え:①②③④

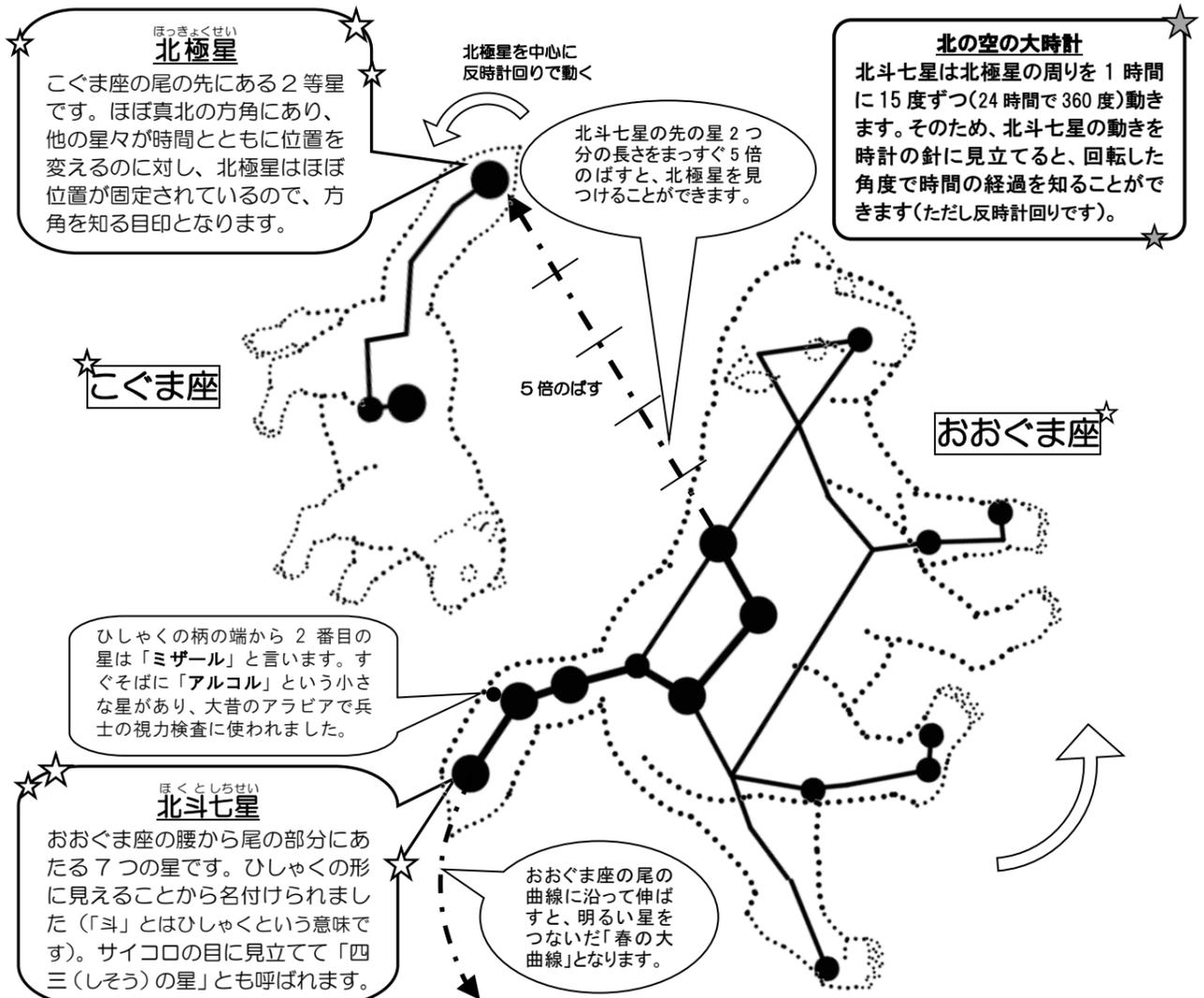
☆ 教育文化センター プラネタリウム通信

ほしみる

No.47 2017.5.1

子の星と七つ星

春の夜空でおおぐま座とこぐま座、そして北斗七星と北極星が見頃を迎えています。日本でも古くから親しまれ、子の星は北極星、七つ星は北斗七星の、古い和名となります。



熊になった母子

ギリシャ神話の中では、おおぐま座は美しい女性カリスト、こぐま座はその息子アルカスが、それぞれ熊に変えられた姿と言われています。

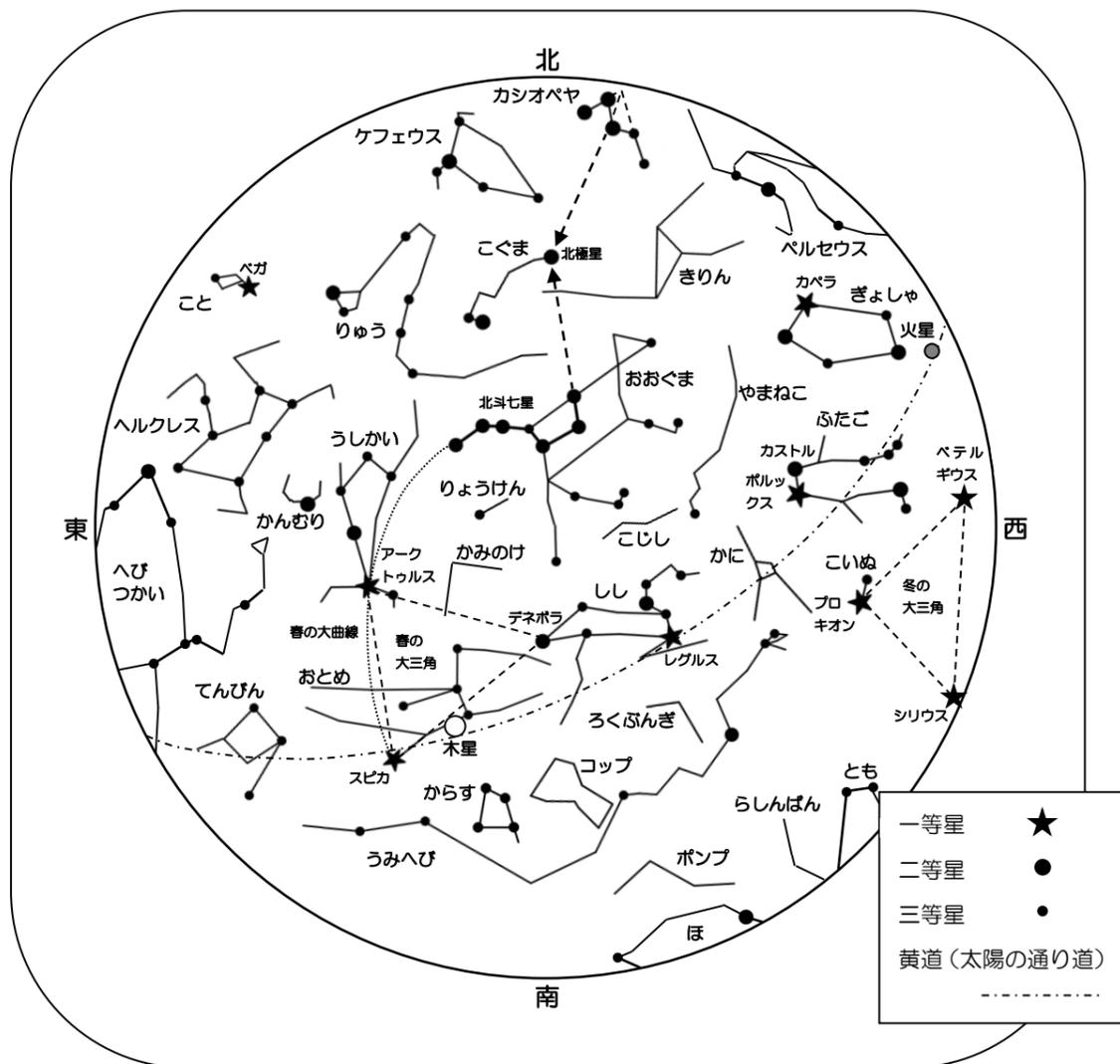
カリストは月と狩りの女神アルテミスに仕える侍女でしたが、彼女に恋をした大神ゼウスとの間に子を授かったことにより、ゼウスの妻ヘラの怒りを買って、大きな熊の姿に変えられてしまいました。

15年の月日が流れ、息子のアルカスは立派な狩人に成長し、ある日森の中で大きな熊を発見します。その熊こそ母カリストなのですが、何も知らないアルカスは熊を狩ろうと弓を構えます。一部始終を空から見ていた大神ゼウスはとっさにアルカスを熊に変え、カリストとともに空に上げて星座にしたとされています。この時、あわてて尾をつかんで投げたため、尾が長くなったそうです。

この物語にちなみ、ゼウスの化身である木星を回る衛星の1つには「カリスト」という名前がつけられています。

季節の星空

5月15日20時頃の松本の星空



5月の主な天文情報

- 4(木) 月とレグルス(しし座の1等星)が接近(日没~翌1時30分頃)
- 6(土) みずがめ座η(エータ)流星群が極大(出現期間4月25日~5月20日。見頃は2時~3時30分頃)
- 7(日) 月と木星が接近(日没~翌3時頃)
- 11(木) 満月(18時頃~明け方)
- 13(土) 月と土星が接近(21時頃~明け方)
- 18(木) 水星が西方最大離角(明け方、観測は難しい)
- 23(火) 月と金星が接近(3時30分頃~明け方)
- 26(金) 新月

★ 極大→天体の活動が最も活発になること。流星群の場合は、最も多く流星が現れる期間を指します。★

★ 西方最大離角→地球から見て、内惑星が太陽から西へ最も離れて見える角度。地上からは、日の出直前の東の空で惑星がよく見えます。★

☆☆☆プラネタリウム事業案内☆☆☆

- 5/14(日) ☆太陽観測 9:00~10:15
天体望遠鏡を使って、太陽のプロミネンスや黒点を観測します。専用のフィルターを使用し、安全に観測できます。(観測ができない天気の場合はプラネタリウムをご覧くださいませ。)
受付開始:5/7(日) 8:30より
定員:15人(小学生以上。小学生の方は保護者同伴)
- 5/20(土) ☆星空散歩・星の観望会 19:30~21:00
天体望遠鏡を使って、季節の天文現象を観測します。(観測ができない天気の場合はプラネタリウムをご覧くださいませ。)
受付開始:5/13(土) 8:30より
定員:40人(小学生以上。高校生以下は保護者同伴)
- 6/3(土) ☆太陽観測 9:00~10:15
天体望遠鏡を使って、太陽のプロミネンスや黒点を観測します。専用のフィルターを使用し、安全に観測できます。(観測ができない天気の場合はプラネタリウムをご覧くださいませ。)
受付開始:5/27(土) 8:30より
定員:15人(小学生以上。小学生の方は保護者同伴)

※事前申し込みが必要な事業についての受付は、電話受付のみとさせていただきます。

惑星の王・木星



4月以降、木星の見頃が続き、夜空の中でもひとときわ明るく輝く姿が見られます。

2017年の木星はおとめ座付近にあります。夜空の中で、木星の黄色い輝きと、近くにあるおとめ座の1等星スピカの青白い輝きの対比が大変美しいです。

木星は太陽の周りを12年かけて1周します。地上から見ると、木星は黄道(太陽の通り道)上を沿って動くように見えるので、私たちの目からは、木星がその黄道上にある12個の星座(黄道十二星座)を1年かけて1つずつ渡り歩くように見えます。

木星は太陽系の中で一番重くて大きい惑星です。直径は地球の約11倍、重さは318倍です。ほとんど水素ガスで占められたガス惑星です。自転速度がとても速いため、表面のガスが巻き上げられ、特徴的なしま模様やうず模様(大赤斑)ができます。

ギリシャ神話では、木星は神々の王ゼウスに例えられます。ゼウスは恋多き男性として描かれますが、その恋人たちの名前は木星を取り巻く衛星の名前となっています。特に有名な4つの衛星のことを、発見者の名前にちなみ「ガリレオ衛星」と呼びます。